

株式会社 シンシア
環境活動報告書
2026



サステナブルな未来へ、 「誠実」に向き合っていくシンシアの環境方針

1. 産業資源の適正処理・再資源化及び環境の美化を推進します。
2. 関連法令、地域社会との協定を順守し、環境汚染の未然防止に努めます。
3. 事業環境の変化に応じて活動目標を設定し、環境パフォーマンスの向上を目指します。
環境管理システムを継続的に改善し環境負荷を低減します。
4. 省資源・省エネルギー及び温室効果ガス排出削減を推進し、持続可能な社会の構築に貢献します。
5. 品川事業所、横浜事業所及び本社で働く一人ひとりが環境に対する意識の向上に努めます。
6. この環境方針は、一般にも公開します。

2025年10月31日
株式会社シンシア
環境管理統括責任者 齋藤 正彦



2026年6月
環境管理統括責任者
齋藤 正彦

平素は当社事業にご理解・ご支援を賜り誠にありがとうございます。「環境活動報告書2026」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、「自然との共生」を企業理念とし、①R・C＝資源循環事業、②リサイクル事業、③環境整備／ビルメンテナンス事業、④コンサルティング事業の4つの事業において、お客様のニーズに的確なソリューションを提供致しております。

2025年度は、人手不足の深刻化や諸コストの上昇に加え、高止まりするエネルギー価格の影響など、廃棄物処理業界を取り巻く環境は引き続き厳しい状況にありました。こうした状況下にあっても、脱炭素社会の実現に向けた動きや、社会への定着が進む「プラスチック資源循環促進法」などを背景に、排出事業者様における廃棄物削減や資源化への意識・取り組みは一層の深化を見せております。これに伴い、当社に求められる役割やニーズも多様化・高度化しています。また、気候変動による災害の激甚化・日常化は、企業のBCP（事業継続計画）や環境リスク管理の重要性を再認識させるものとなりました。このような激動の時代において、企業には単なる環境配慮にとどまらない、より実効性の高い持続可能な事業運営への変革が求められています。

当社においても、単なる適正処理にとどまらず、焼却廃熱による発電やリサイクルルートの拡大、省資源の推進に取り組んでまいりました。お客様の廃棄物ができるだけ再資源化されるよう、最適なご提案に努めております。

また、当社は2023年秋に株式会社レナタス設立当初からグループ会社の一員として参画し、グループ会社間のネットワークやノウハウを活かした、より高度な環境サービスを展開しています。

このグループシナジーをさらに強固なものとし、激変する社会ニーズに迅速に対応していくため、今後も独自の技術磨きとグループ内の連携深化を強力に推し進めていく所存です。多様化する排出事業者様の課題に寄り添い、信頼されるパートナーとして持続可能な社会の実現に貢献できるよう、自社の役割をしっかりと全うし、一步一步着実に歩みを進めてまいります。

本報告書（環境活動報告書2026）では、主に2025年度における当社の環境への取り組みについてご報告いたします。ぜひご一読のうえ、忌憚なきご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

Contents

- | | |
|---------------------------|------------------|
| ① ごあいさつ | ⑦ 環境管理組織 |
| ② シンシアの事業概要 | ⑧ 資格の取得 |
| ③ シンシア品川R・Cセンター | ⑨ 各サイトの活動目標と実績 |
| ④ シンシア横浜R・Cセンター | ⑩ 主要な環境パフォーマンス指標 |
| ⑤ シンシア品川リサイクルセンター | ⑪ 緊急事態対応訓練 |
| ⑥ インプット・アウトプット（2025年度実績値） | ⑫ 環境教育とコミュニケーション |

R・C＝資源循環事業

R・C＝資源循環事業は、民間最大級の都市型廃棄物処理施設「シンシア品川R・Cセンター」と「シンシア横浜R・Cセンター」を拠点に、一般廃棄物から産業廃棄物まで幅広く処理しています。両センターで1日最大502tの焼却処理が可能で、24時間365日受け入れ対応しています。1999年の操業当初から資源循環を意識したマテリアルリサイクルとサーマルリサイクルを実施し、資源の再利用とエネルギーの有効活用を推進しています。



焼却処理能力

502t/日



廃棄物処分実績
(2025年度)

134,744t/年



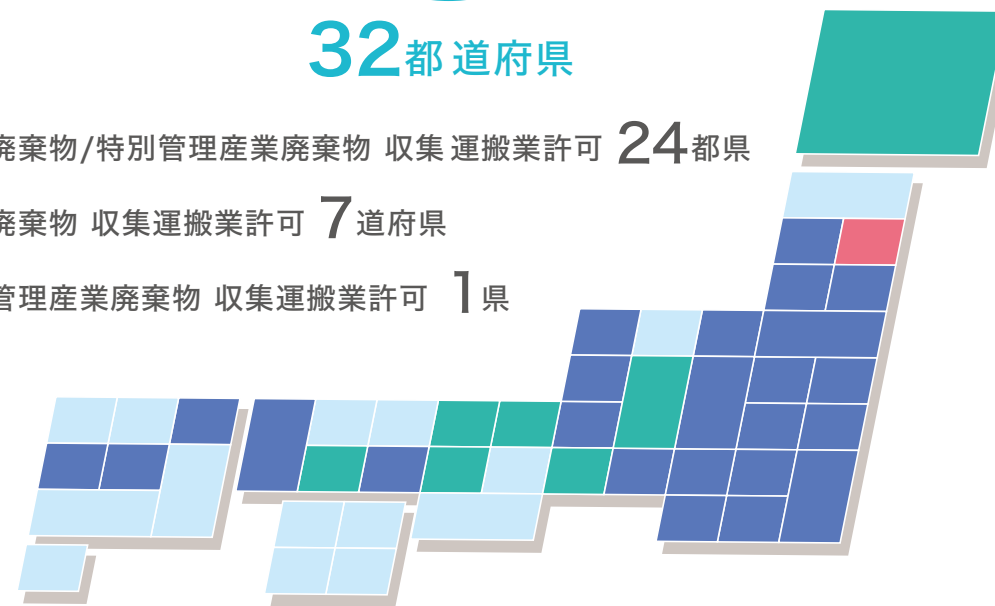
収集運搬許可

32都道府県

■ 産業廃棄物/特別管理産業廃棄物 収集運搬業許可 24都県

■ 産業廃棄物 収集運搬業許可 7道府県

■ 特別管理産業廃棄物 収集運搬業許可 1県



リサイクル事業

リサイクル事業は、「シンシア品川リサイクルセンター」を拠点に全国へネットワークを展開して、情報通信機器を中心に増え続ける不用品や廃棄物をリサイクルしています。不用品から金属類や再生利用可能なものを最大限回収し、金属素材メーカーに売却（マテリアルリサイクル）しています。売却できないものは、シンシア品川R・Cセンターにて適正処理と再資源化を行っています。



車両運用部

当社の車両部門は、廃棄物の収集運搬を専門に行っています。安全性と法令遵守を最優先にし、日々の業務に励んでいます。全車両に危険運転検知機能付きのドライブレコーダーや後方確認支援警報装置を装着しており、

一部車両には車載計量器も装着し、過積載防止に努めております。廃棄物の引き取り時には、廃棄物処理法や道路交通法などの関連法令を遵守し、廃棄物の安全かつ適切な管理を実施しています。



環境整備／ビルメンテナンス事業

清掃業務を中心に、職場環境の整備を行うサービスを展開しています。不用品や廃棄物の回収、リサイクル、そして専門知識を活かしたウェストマネジメント（廃棄物管理）も実施しており、清掃・営繕からリサイクル、廃棄物処理まで、一社で完結できる総合的なサービスを提供しています。スタッフは環境負荷の低減を意識し、環境に優しい用具を使用して作業を行います。また、情報セキュリティに関しても万全の管理体制を確立しています。



コンサルティング事業

コンサルティング事業では、廃棄物管理だけでなく、リサイクル率向上を目指した戦略的な提案を行っています。全国規模のネットワークを活かし、オフィスや工場などの環境全般に関するコンサルティングサービスをワンストップで提供します。現状の廃棄物処理のプロセスを分析し、最適なりサイクル手法や廃棄物削減策を策定。これにより、効率的なりサイクルプロセスの導入を支援し、企業の環境負荷の軽減と持続可能な運営を実現します。



シンシア品川R・Cセンターは、東京都品川区に位置しています。ここでは、事業系一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の焼却・溶融処理を行っています。溶融炉では、焼却後の灰（焼却灰）を高温で溶かし、溶融スラグにします。溶融スラグは土木資材としてマテリアルリサイクルが可能であり、これまで埋立処分されていた焼却灰を有効活用しています。

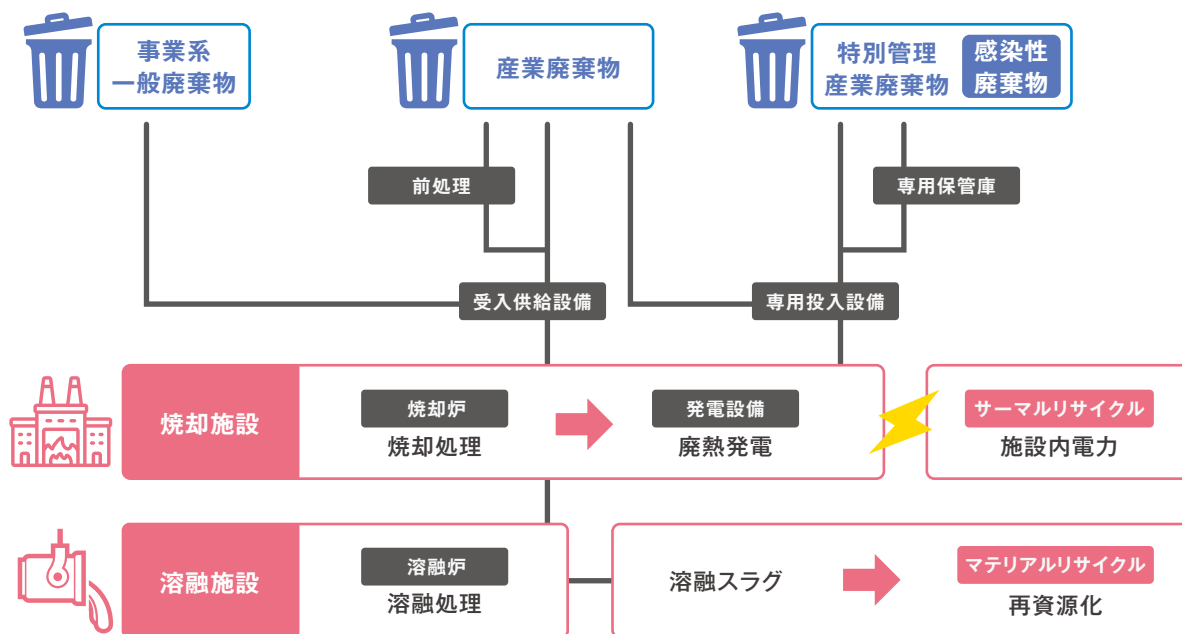
このマテリアルリサイクルによって最終処分を完了させることができます。廃棄物処理manifestoにおけるE票を即日返却可能で、最終処分プロセスを省略することができます。排出事業者様にとっては複雑なmanifestoの手続きが簡略化され、廃棄物処理のスピードも向上します。

さらに、焼却廃熱を利用した発電を行い（サマールリサイクル）、施設内の電力として有効に活用しています。私たちは、効率的で持続可能な廃棄物処理を通じて、地域社会と環境保護に貢献しています。

シンシア品川R・Cセンター 処理工程



シンシア品川R・Cセンターにて受入



受入可能な廃棄物の種類

事業系一般廃棄物

普通ごみ

産業廃棄物

燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、動植物性残さ、金属くず、ガラス・コンクリート及び陶磁器くず、ばいじん、政令13号指定廃棄物、動物系固形不要物

特別管理産業廃棄物

廃油、廃酸、廃アルカリ、特定有害産業廃棄物、感染性産業廃棄物

処理能力

焼却

〈一般廃棄物、特別管理産業廃棄物〉

130t/24h (65t/24h×2炉)

〈産業廃棄物〉

142t/24h (71t/24h×2炉)

溶融

50t/24h (25t/24h×2炉)

シンシア品川R・Cセンター 排ガス測定数値

設備	測定項目	単位	基準	測定結果(2025年度)							
				2月	3月	4月	5月	6月	8月	10月	12月
焼却1号炉	ばいじん ^{*1}	g/m ³	0.05	0.001未満	—	0.001未満	—	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫酸酸化物	ppm	20	0.4未満	—	0.4未満	—	0.5	0.4	0.5	0.4未満
	窒素酸化物	ppm	70	37	—	31	—	28	27	28	38
	塩化水素	ppm	20	2	—	3	—	2	1	2	5
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	—	—	—	0.0000024	—	—	—	—
焼却2号炉	ばいじん ^{*1}	g/m ³	0.05	0.001未満	—	0.001未満	—	0.002	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫酸酸化物	ppm	20	0.4未満	—	0.4未満	—	0.5	0.5	0.5	0.4未満
	窒素酸化物	ppm	70	35	—	36	—	25	30	30	50
	塩化水素	ppm	20	2	—	1	—	2	2	2	2
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	—	—	—	0.00010	—	—	—	—
溶融1号炉	ばいじん ^{*1}	g/m ³	0.05	—	0.001未満	0.001未満	—	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫酸酸化物	ppm	20	—	0.6未満	0.4未満	—	0.5未満	0.6	0.5未満	0.5未満
	窒素酸化物	ppm	70	—	23	21	—	16	23	22	22
	塩化水素	ppm	20	—	2	2未満	—	1	2	2未満	2
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	—	—	—	0.027	—	—	—	—
溶融2号炉	ばいじん ^{*1}	g/m ³	0.05	—	—	—	—	—	—	—	—
	硫酸酸化物	ppm	20	—	—	—	—	—	—	—	—
	窒素酸化物	ppm	70	—	—	—	—	—	—	—	—
	塩化水素	ppm	20	—	—	—	—	—	—	—	—
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	—	—	—	—	—	—	—	—

*1 標準状態(0℃、101.32kPa)を示す。

測定月：サンプリング月，未満：測定限界未満の数値，—：測定なし



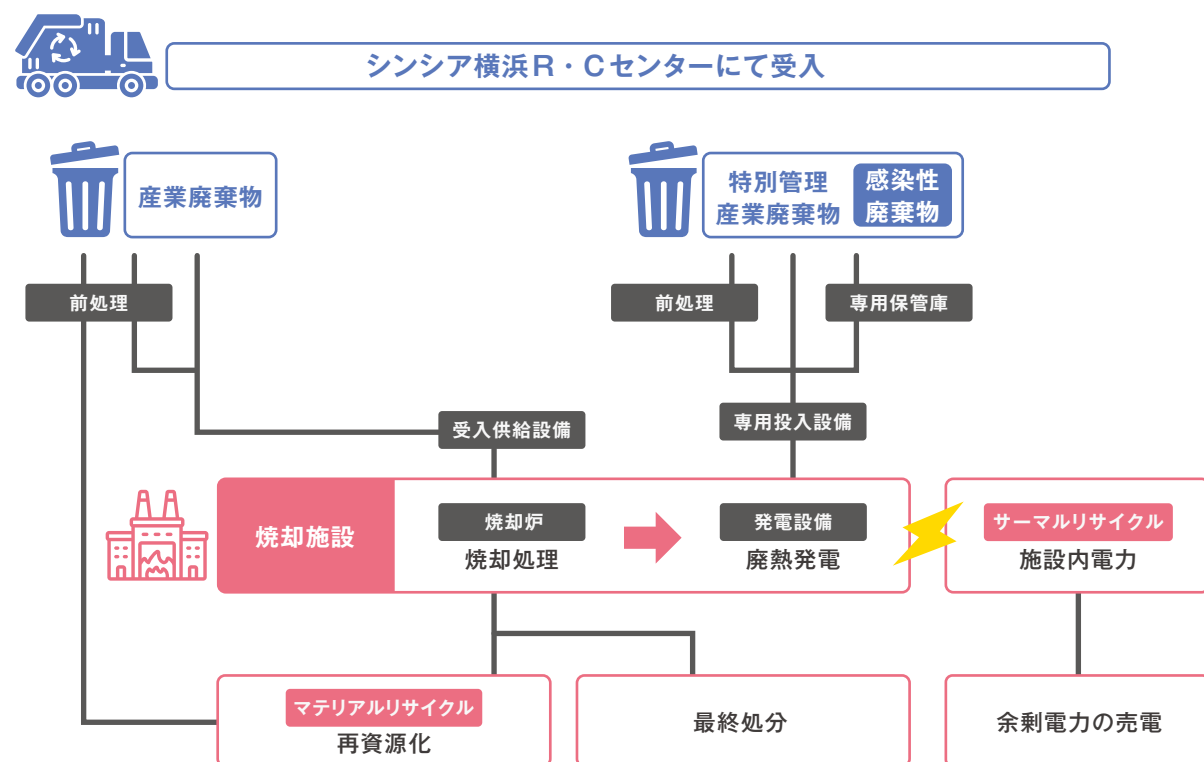
横浜市金沢区に位置するシンシア横浜R・Cセンターは、首都圏最大規模の焼却施設として、2009年7月に操業を開始しました。24時間体制で廃棄物の受け入れが可能で、1日最大372tの産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物を処理することができます。廃棄物の適正処理はもちろん、スプレー缶の安全な処理のほか、機密文書や感染性廃棄物なども安全にかつ確実に処理しています。

当センターは開業以来無災害を継続し、2026年7月には操業17周年を迎えました。これからも長く施設を運営していけるように、定期的なメンテナンスや部品管理の効率化を図り、安全で安定した施設の維持に努めています。

こうした安定稼働を基盤として、環境負荷低減にも積極的に取り組んでいます。焼却による廃熱を利用して発電し、施設内で有効活用するとともに余剰電力を売却することで、温室効果ガス（GHG）の排出量削減に貢献しています。2024年9月には、横浜市の「脱炭素取組宣言」に参加し、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、事業活動における脱炭素化を継続して推進していく姿勢を表明しました。さらにこの取り組みの一環として、株式会社ナリコー様のご協力のもと、CO₂吸収能力が非常に高い「ナリコー早生桐®」を当センター内に試験植樹し、生育を見守っています。



シンシア横浜R・Cセンター 処理工程



受入可能な廃棄物の種類

産業廃棄物

燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート及び陶磁器くず、ばいじん、動物系固形不要物

特別管理産業廃棄物

廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類に限り、特定有害産業廃棄物であるものを除く）、感染性産業廃棄物

処理能力

焼却

372t/24h (186t/24h×2炉)

破碎

80t/9h、9.6t/24h (4.8t/24h×2基)

切断

11t/9h

分離

22.16t/9h



シンシア横浜R・Cセンター 排ガス測定数値

設備	測定項目	単位	基準	測定結果(2025年度)					
				2月	4月	6月	8月	11月	12月
焼却1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.02	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫酸酸化物	ppm	20	0.5未満	0.5未満	0.5	1.1	1.1	0.6
	窒素酸化物	ppm	45	28	21	23	24	24	23
	塩化水素	ppm	20	3	4	3	8	6	4
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.1	—	—	0.0000026	—	0	—
焼却2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.02	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫酸酸化物	ppm	20	0.9	1.3	0.5	3.2	0.8	1.7
	窒素酸化物	ppm	45	25	17	18	27	20	21
	塩化水素	ppm	20	6	3	5	5	4	5
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.1	—	—	0	—	0	—

*1 標準状態(0℃、101.32kPa)を示す。

測定月：サンプリング月、未満：測定限界未満の数値、—：測定なし



廃棄物を焼却する際に発生する硫酸酸化物や窒素酸化物、塩化水素等の有害ガスは、排ガス処理設備にてクリーンなガスに処理した後に大気へ放出しています。排ガス処理が適切に行われているか定期的に測定(分析業者に委託)しています。測定結果については基準値を下回っていることを確認しています。



当社リサイクルセンターの原点は、江戸時代のくず屋の精神にあります。当時、くず屋は江戸中からゴミを集め、一切無駄にせず再利用していました。私たちはここ品川で、搬入された不用品や廃棄物を丁寧に解体し、プロの判断で選別します。その後、破碎機による破碎と大型プレス機による圧縮を行い、金属素材メーカー等に売却し、マテリアルリサイクルを実践しています。2024年には切断機を導入し、より効率的な中間処理ができるようになりました。

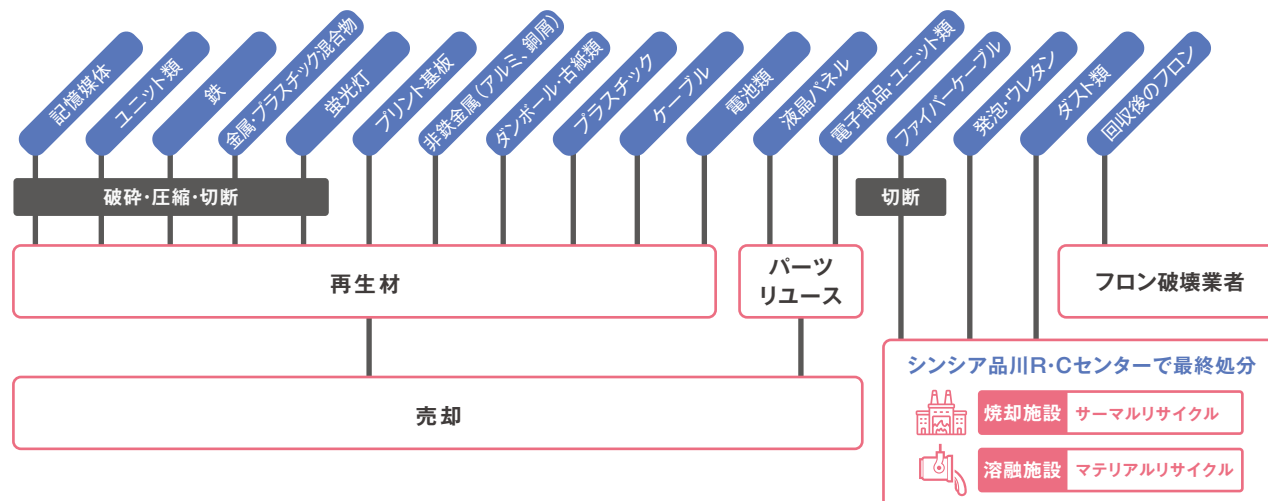
シンシア品川リサイクルセンター 処理工程



シンシア品川リサイクルセンターにて受入



解体・選別



受入可能な廃棄物の種類

産業廃棄物

廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(廃蛍光灯を含む)

処理能力

破碎 4.8t/8h	破碎〈廃蛍光灯〉 16,000本/8h
圧縮 42.2t/8h	切断 13.8t/8h



当社は事業活動に伴う環境負荷を把握し、廃棄物の適正な処理はもちろんのこと、省エネルギー、廃棄物のリサイクル等、環境負荷の軽減につながる取り組みを継続して実施しています。

一般廃棄物受入量

6,836t

産業廃棄物受入量

23,730t

特管廃棄物受入量

11,344t

電力消費量: 1,321MWh

灯油消費量: 563kL



INPUT

産業廃棄物受入量

87,216t

特管廃棄物受入量

5,172t

電力消費量: 16,464MWh

都市ガス消費量: 122,622m³

シンシア品川事業所



品川R・Cセンター



品川リサイクルセンター

シンシア横浜事業所



横浜R・Cセンター

GHG 排出量

39,513t-CO₂e

廃棄物の搬出量

ばいじん

2,761t

廃蛍光灯ランプ破碎物

37t

安定型混合廃棄物

181t

有機物の売却量

溶融スラグ

2,216t

古紙

98t

金属

2,357t

プラスチック

304t

OUTPUT

GHG 排出量

182,393t-CO₂e

廃棄物の搬出量

ばいじん

8,374t

燃えがら

6,190t

廃熱発電による発電量

28,488MWh

環境マネジメントシステム認証取得の経緯(1999年～)

1999年 11月 R・Cセンター(現シンシア品川R・Cセンター) ISO14001認証取得(焼却・溶融処理施設として日本初)
 2007年 9月 シンシア品川(現シンシア品川事業所)へ登録範囲拡大
 2011年 11月 登録範囲にシンシア横浜事業所を追加
 2012年 10月 登録範囲に本社を追加
 2025年 9月 第8-2回定期維持審査

環境マネジメントシステム(EMS)の推進体制と実績

当社の環境マネジメントシステムでは、トップマネジメントである環境管理統括責任者の下、事業内容や拠点を考慮して分けられた4つのEMSサイトが中心となって活動しています。環境管理責任者は、これら4つのサイトを統括し、EMS活動を推進しています。各サイトでは環境管理推進責任者が指揮して、部門ごとに環境負荷の低減を目指した活動目標、教育、訓練等を計画・実施しています。

また、環境への取り組みを確実なものにするため、社内ルール(ISO 14001要求事項含む)が正しく運用されているか、部門間で相互にチェックし合う「内部環境監査」を実施しています。2025年度の監査では、より良くするための指摘が9件見つかりました。現在、すべての項目について改善に向けた対策を実施し、システムの仕組みをさらに強化しています。監査員の教育にも力を入れ、社内教育や外部セミナーを活用することで、内部環境監査員の力量向上と新たな人材の養成を進めています。

さらに、客観的な評価を受けるため、外部認証機関による定期維持審査および更新審査を受審しています。2025年度の定期維持審査では環境パフォーマンス向上のためのアドバイス(改善事項)を2件いただき、具体的な改善へ着手しました。

当社の
環境管理体制
組織図

資格および受講講習の名称

人数

産業廃棄物焼却施設技術管理士

33名

ごみ処理施設技術管理士

17名

最終処分場技術管理士

4名

破砕・リサイクル施設技術管理士

10名

特別管理産業廃棄物管理責任者

17名

産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)処分業講習修了者

46名

産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)収集運搬講習修了者

36名

冷媒回収技術者

5名

エネルギー管理士

2名

電気主任技術者 2種

2名

電気主任技術者 3種

3名

電気工事士

22名

ボイラー・タービン主任技術者

20名

特級ボイラー技士

1名

一級、二級ボイラー技士

64名

ボイラー整備士

12名

クレーン運転業務特別教育修了者

97名

酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了者

74名

特定化学物質作業主任者講習修了者

47名

有機溶剤作業主任者技能講習修了者

40名

資格および受講講習の名称

人数

環境計量士(濃度関係)

1名

公害防止管理者(大気関係)

9名

公害防止管理者(水質関係)

6名

公害防止管理者(騒音)

3名

公害防止管理者(振動)

1名

公害防止管理者(ダイオキシン類)

2名

東京都公害防止管理者

5名

衛生管理者

13名

危険物取扱者 甲種

4名

危険物取扱者 乙種

79名

消防設備士

8名

高圧ガス製造保安責任者

4名

建築物環境衛生管理技術者

2名

ビルクリーニング技能士

3名

PCB収集運搬作業従事者講習修了者

9名

解体工事施工技士

2名

一級土木施工管理技士

1名

一級管工事施工管理技士

1名

技術士(衛生工学部門)

1名

環境カウンセラー(事業者部門)

2名

2026年6月現在



環境負荷低減のための確かな技術の確証として、資格の取得や外部講習会への参加を積極的に行っています。講習会や、資格取得時に得た知識と技術は、日々の業務に活かされ、廃棄物の適正処理と環境負荷低減に役立っています。



各サイトでは、それぞれ環境負荷低減のための活動目標を定め、達成に向けて取り組んでいます。

品川R・Cサイト

活動目標	不具合物の搬入の抑制	設備の安定的な運用のための提案活動
担当部門	運用G / 受入G / 技術G	運用G / 受入G / 保全G
2025年度目標	展開検査又は燃焼試験の年間144件以上の実施	要改善案件の70%を実施
2025年度実績	年間149件を実施 達成	対象案件100%の改善完了 達成
2026年度目標	展開検査・燃焼試験・性状確認合計124件以上の実施	要改善案件の70%を実施
SDGsとの関連	11 住み続けられるまちづくりを	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任 つかう責任

品川I棟サイト

パーツリユース品の回収	危険運転（急ブレーキ等）抑制によるエコドライブの推進	リサイクルレベル向上案件の獲得
リサイクル事業部	車両運用部	R・C営業本部
ICロールにおけるICとプラの分離・回収 年間目標：目標量以上の回収	月間基準達成車両：7台以上	リサイクルレベル向上案件の受注：前年度実績比90%以上
IC回収量：目標比173% プラ回収量：目標比216% 達成	月平均10.9台達成 （年間危険運転総検知数：1件） 達成	受注案件：前年度実績比120% 達成
ICロールにおけるICとプラの分離・回収 年間目標：目標量以上の回収	月間基準達成車両：8台以上	リサイクルレベル向上案件の受注：前年度実績比90%以上
SDGsとの関連	12 つくる責任 つかう責任	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任

本社サイト

活動目標	消耗品の使用量低減	オフィス活動におけるCO ₂ 排出量の可視化
担当部門	本社	本社
2025年度目標	対象5拠点における消耗品使用量の低減	紙・電気の使用量とCO ₂ 排出量の低減 ①コピー用紙使用量：前年比3%減 ②電気使用量：前年比2%減
2025年度実績	対象全拠点での使用量低減 達成	①コピー用紙使用量：前年比11%減 達成 ②電気使用量：前年比2.3%減
2026年度目標	対象4拠点における消耗品使用量の低減	紙・電気の使用量とCO ₂ 排出量の低減 ①コピー用紙使用量：前年使用量以下 ②電気使用量：前年使用量以下
SDGsとの関連	12 つくる責任 つかう責任	8 働きがいも経済成長も

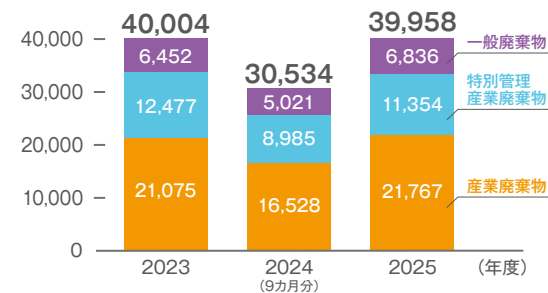
横浜R・Cサイト

排ガス処理で使用する粉体薬品の削減	飛灰削減のための搬入廃棄物の性状確認及び是正対応	電力量の把握と空調設備の省エネ活動
運用G	管理部	施設技術本部
粉体薬品の基準使用量以下の維持	性状検査：年間340件以上 展開検査：年間32件以上	使用電力量の月次モニタリング 空間設備の計画的更新
基準使用量から12.3%削減（87.7%に抑制） 達成	性状検査実施件数：383件 展開検査実施件数：37件 達成	月次モニタリングの継続実施 計画通りの空間設備更新 達成
粉体薬品の基準使用量以下の維持	性状検査：年間310件以上 展開検査：年間29件以上	使用電力量の月次モニタリング 空間設備の計画的更新
SDGsとの関連	12 つくる責任 つかう責任	11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を

主要な環境パフォーマンス指標



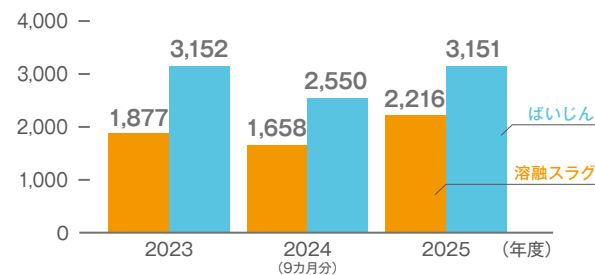
廃棄物処分量 (t)



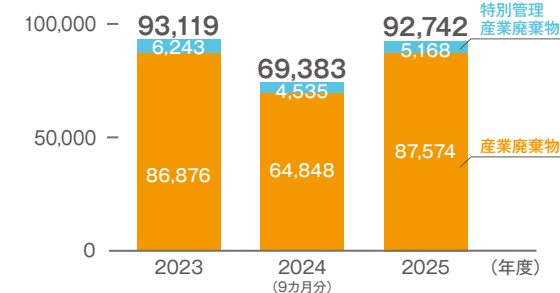
シンシア品川R・Cセンター



溶融スラグ及び
ばいじん搬出量 (t)



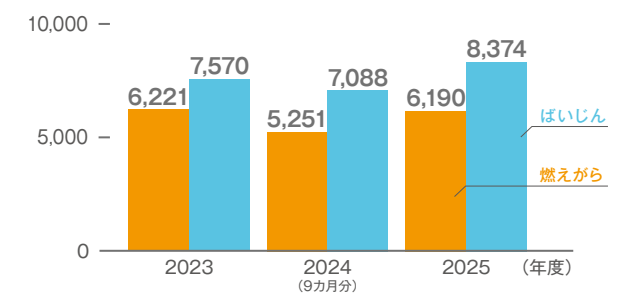
廃棄物処分量 (t)



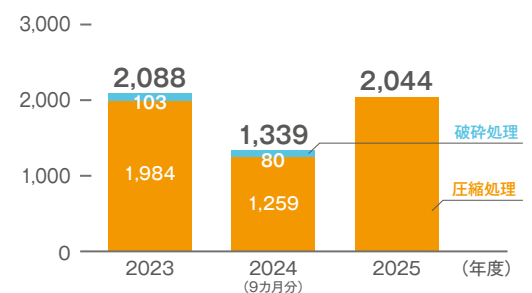
シンシア横浜R・Cセンター



燃えがら及び
ばいじん搬出量 (t)



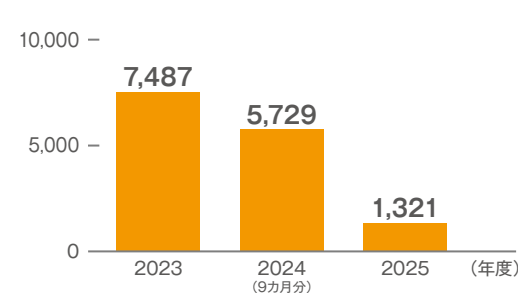
廃棄物処分量 (t)



シンシア品川リサイクルセンター



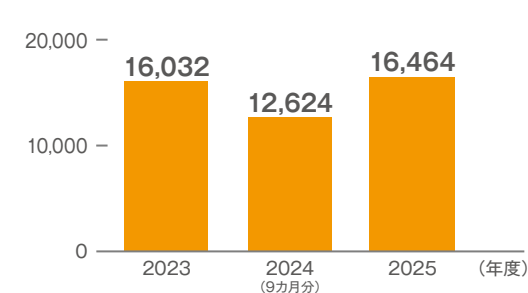
電力消費量 (MWh)



シンシア品川事業所全体



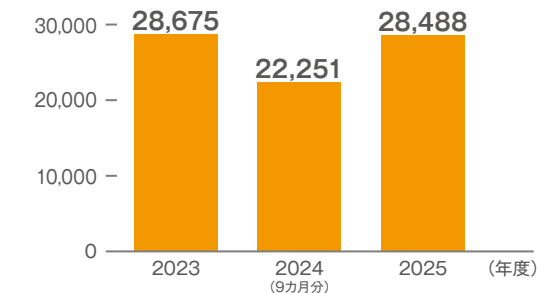
電力消費量 (MWh)



シンシア横浜R・Cセンター



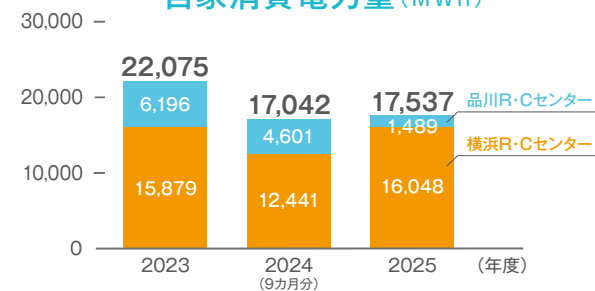
売電量 (MWh)



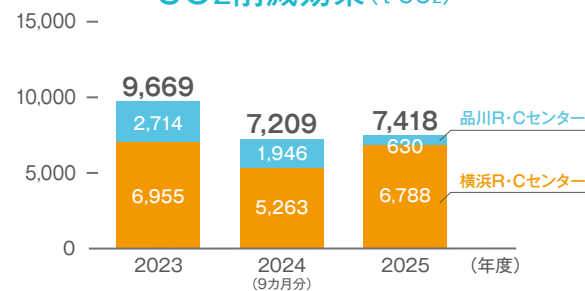
廃熱発電による二酸化炭素排出量削減貢献

当社では廃棄物の焼却時に発生する熱を利用して発電しています(サーマルリサイクル)。発生した電力は社内ですべて利用するとともに、一部を電力会社に売却しています。2025年度には、品川R・Cセンターと横浜R・Cセンターで合計17,537MWhの電力を自家利用しました。もしこの電力を電力会社から購入していた場合、約7,418tの二酸化炭素が排出される計算になります。両センターの稼働以来、サーマルリサイクルを通じて間接的に二酸化炭素の排出量削減に貢献し続けています。

自家消費電力量 (MWh)



CO₂削減効果 (t-CO₂)

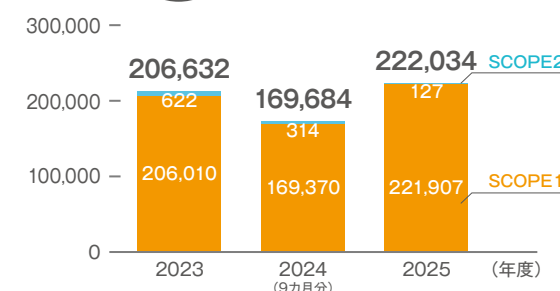


2024年度は当社の会計年度変更にもとない4月～12月の9カ月分の数値です。

GHG排出量削減に向けた当社の取り組み



GHG排出量* (t-CO₂e)



全社

*地区センターを含む全社でのGHG排出量 (t-CO₂e)

廃棄物の焼却を主たる事業とする当社にとって、温室効果ガス (GHG) の排出量削減には構造的な制約がありますが、可能な限りの取り組みを積極的に推進しています。左ページに記載のとおり、当社は焼却廃熱を利用した発電により排出削減に貢献しています。発電設備については計画的かつ効率的なメンテナンスを実施して、外部からの電力購入を最小限に抑えています。購入する電力についても、非化石証書を活用した実質再生可能エネルギーの電力メニューへ切り替え、購入電力に伴うGHG排出量の削減を図っています。

また、フォークリフトのEV化を段階的に進めています。2025年度には、収集運搬車、営業車、従業員送迎バス等の稼働に伴う235t-CO₂eと、LPガス式フォークリフトの使用に伴う50t-CO₂eの合計285t-CO₂eについて、J-クレジットを活用し、当社のScope1排出量をカーボン・オフセットしました。このうち、当社便による廃棄物の収集運搬に伴う排出は、お客様のScope3 (カテゴリ4) の収集運搬分と同一の活動に由来するものです。

今後も、限られた条件の中でも創意工夫を重ね、現実的かつ継続的なGHG排出削減に取り組んでまいります。

当社では、緊急事態を想定した対応訓練を定期的に行っています。

ごみビット火災対応訓練（品川R・Cセンター）

品川R・Cセンターにおいて、ごみビット火災を想定した対応訓練を実施しました。訓練では、初期消火や初動対応の流れを確認するとともに、連絡体制、各担当者の役割、防災監視盤の取り扱いについて、改めて認識を共有しました。

また、実際の火災対応で使用する防災設備として、放水銃、屋内消火栓、空気呼吸器などの使用方法を確認しました。特に放水銃については、ごみビット内への放水方法や操作時の注意点を共有し、緊急時に安全かつ確実に対応できるよう、手順の再確認を行いました。訓練後には、参加者間で対応内容を振り返り、現行のマニュアルおよび教育内容に基づいて対応できることを確認しました。今後も定期的な訓練を通じて、火災発生時の対応力の維持・向上と安全管理体制の確認を継続していきます。



ビットへの放水訓練の様子

総合消防訓練（横浜R・Cセンター）

横浜R・Cセンターにおいて、首都直下型地震を想定した総合消防訓練を実施しました。

避難訓練では、放送に従って駐車場へ避難し、各部署ごとに点呼を行いました。日頃の訓練の積み重ねにより、避難から点呼までを円滑に実施することができました。

あわせて、屋内消火栓を使用した初期消火訓練や、浸水時の対応を想定した止水板設置訓練も実施しました。各訓練では、設備の使用時の注意点や設置方法を確認し、災害時に必要となる対応手順を実践的に確認しました。地震・火災・浸水といった複数のリスクを想定し、事業所全体で災害時の行動を確認する機会となりました。

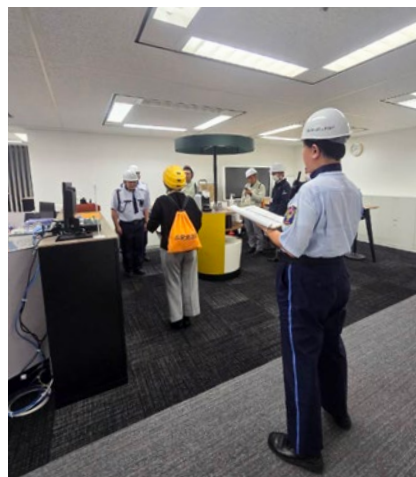


避難後の点呼結果報告の様子

ビル主催の定期避難訓練への参加（本社）

本社では、入居するビルの管理会社が主催する定期的な避難訓練に参加し、不測の事態に備えています。2025年の訓練は、「大規模な地震が発生し、その直後に当社フロアから火災が発生したものの、初期消火に失敗した」という、当社が火元となる非常に緊迫したシナリオに基づいて実施されました。参加した従業員はヘルメットや非常持ち出し袋を迅速に着用し、社内の点呼や誘導役の指示に従って速やかな避難行動をとりました。

今回の訓練では、社内の自衛消防隊による安全確認だけでなく、ビルの防災センター（管理会社）への通報や情報連携といったビル側と連動した対応についても、実践的な流れを深く再確認しました。本社においても、ビル全体の防災体制と連携しながら、非常時に必要な行動を一人ひとりが確認する機会となりました。



初期対応後の報告の様子

環境月間活動

従業員の環境意識向上を目的として、年2回「環境月間」を設定し、事業所周辺の清掃活動の他、他部門の業務内容を理解するためのイベントや勉強会を実施しています。2025年度は計9件を実施しました。

	主催	活動名
6月	総務部（品川）	大井ふ頭緑道公園の清掃活動
	管理部（横浜）	通勤経路のごみ拾い活動
	本社	はじめてのChatGPT:業務活用の第一歩（web開催）
11月	総務部（品川）	大井ふ頭緑道公園の清掃活動
	管理部（横浜）	通勤経路のごみ拾い活動
	リサイクル事業部	開梱・分別処理体験
	車両運用部	過積載防止に取り組もう、トラックの死角
12月	R・C営業本部	節電パトロール
	運用G（品川）	ウェアラブルデバイスによる設備管理体験

ごみ拾い活動

シンシア品川事業所では、八潮自治連合会様のご協力のもと大井ふ頭緑道公園でのごみ拾い活動を行っています。シンシア横浜事業所では、並木北駅及び並木中央駅から横浜事業所まで従業員の通勤経路のごみ拾い活動を行っています。

ごみ拾い活動は毎年両サイトで続けてきており、回収するごみの量は年々減ってきているようです。近隣の環境美化はもとより、道路や公園内を通行する方々が気持ちよく利用できるように、これからも活動を続けてまいります。



大井ふ頭緑道公園内清掃活動（品川事業所）



通勤経路のごみ拾い活動（横浜事業所）

現地確認と施設見学への対応

当社では、ステークホルダーの皆様に対し、施設やサービスへの理解を深めていただくことを目的に、現地確認と施設見学を随時受け入れています。

2025年度は、取引先様を中心に品川、横浜両事業所合わせて延べ134社の皆様に現地確認にご来場いただき、焼却設備や処理工程の実際をご確認いただきました。また、施設見学としても排出事業者様や関係者様延べ589名の皆様に、施設模型によるプロセス説明のほか、制御室での運転管理、焼却炉での処理状況、パソコンなどの解体現場もご覧いただきました。こうした対応に加え、GHG排出量を含む環境データの開示や、作業・設備に関してアンケートなど14件のお問い合わせがあり回答しております。

〒140-0013 東京都品川区南大井6丁目26番3号 大森ベルポートD館6F
TEL 03-3764-5300(代表) FAX 03-3764-5347

お問い合わせはinfo@sincerehq.comへ

株式会社シンシア 環境活動報告書2026 発行日:2026年8月 発行者:EMS事務局

環境活動報告書の無断転載を禁じます。